

CLIPPEDIMAGE= JP404269048A

PAT-NO: JP404269048A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 04269048 A

TITLE: AUTOMATIC TELEPHONE DIALING SYSTEM UTILIZING
TELEPHONE DIRECTORY WITH
BAR CODE

PUBN-DATE: September 25, 1992

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

WATANABE, KAOKO

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

NEC CORP

COUNTRY

N/A

APPL-NO: JP03029755

APPL-DATE: February 25, 1991

INT-CL (IPC): H04M001/274

ABSTRACT:

PURPOSE: To attain automatic telephone dialing without mistake by providing a bar coded telephone directory to the system.

CONSTITUTION: When a bar code read mechanism 4 of a telephone set 3 reads a destination telephone number from a bar coded telephone directory 2, the telephone set 3 makes automatic dialing to the destination based on the telephone directory 2 and is connected to a destination telephone set 8 via a public telephone line network 7. A bar code integrated telephone number printer 1 is used to print out a telephone call destination onto the telephone directory 2. Thus, a wrong dialing of the destination number at the number entry is not caused and proper automatic telephone dialing is implemented.

COPYRIGHT: (C)1992,JPO&Japio

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平4-269048

(43)公開日 平成4年(1992)9月25日

(51)Int.Cl.⁵
H 04 M 1/274

識別記号 庁内整理番号
7190-5K

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1(全3頁)

(21)出願番号 特願平3-29755

(22)出願日 平成3年(1991)2月25日

(71)出願人 000004237

日本電気株式会社

東京都港区芝五丁目7番1号

(72)発明者 渡邊 佳穂子

東京都港区芝五丁目7番1号日本電気株式

会社内

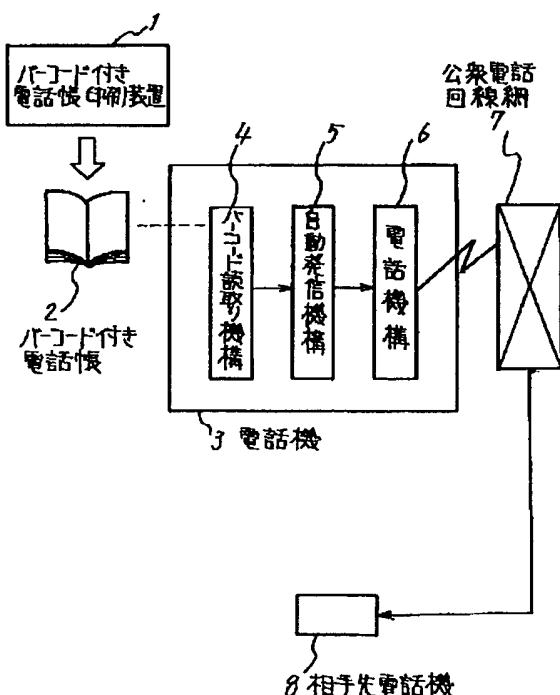
(74)代理人 弁理士 内原 晋

(54)【発明の名称】 バーコード付き電話帳利用による自動電話発信方式

(57)【要約】

【構成】バーコード付き電話帳印刷装置1により電話番号をバーコード化した電話帳を印刷する。次に、電話機3は印刷されたバーコード付き電話帳2の電話番号を読み取ると共に自動発信を行い、公衆電話回線網7を介して相手先電話機8と接続され通話可能となる。

【効果】誤発信がなくなる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 電話番号をバーコード化した電話帳を印刷する印刷装置と、前記印刷装置により作成したバーコード付き電話帳から前記電話番号を読取るバーコード読み取り手段を有する電話機とを備え、前記バーコード付き電話帳を前記電話機に挿入することにより相手先電話機へ自動発信することを特徴とするバーコード付き電話帳による自動電話発信方式。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は電話発信方式に関し、特にバーコードを利用した自動電話発信方式に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来の自動電話発信方式は、自動電話発信機構及び記憶機構をあらかじめ内蔵している電話機に相手先の電話番号と相手先識別番号を電話機のキーにより入力し、自動発信を行っていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 この従来の自動電話発信方式では、相手先電話番号の自動発信を行っているため、予め相手先電話番号を電話機の記憶機構内に入力しておかなければ自動発信が行えなかった。また、相手先電話番号を入力する時、オペレータが電話番号を間違えて入力した場合でも自動電話発信を行うため、相手先を確認して初めて電話番号の間違いに気づき、再度入力する手間がかかるという問題点があった。

【0004】

【課題を解決するための手段】 本発明のバーコード付き電話帳による自動電話発信方式は、電話番号をバーコード化した電話帳を印刷する印刷装置と、前記印刷装置により作成したバーコード付き電話帳から前記電話番号を読取るバーコード読み取り手段を有する電話機とを備えて構成されている。

【0005】

【実施例】 次に、本発明の実施例について図面を参照して説明する。

【0006】 図1は本発明の一実施例を示すブロック図

である。

【0007】 本実施例のバーコード付き電話帳による自動電話発信方式は、図1に示すように、バーコード化した電話番号を電話帳に印刷するバーコード付き電話帳印刷装置1と、バーコード読み取り機構4、自動発信機構5及び電話機6を内蔵する電話機3とを備えて構成されている。

【0008】 次に、電話を掛ける場合、電話機3のバーコード読み取り機構4によりバーコード付き電話帳2から相手先の電話番号を読み取らせる。そうすると、電話機3はバーコード付き電話帳2から相手先に対して自動発信を行い、更に、公衆電話回線網7を介して相手先電話機8と接続され、必要な通話を行うことができる。

【0009】 なお、電話を掛ける必要があると思われる相手先については、予めバーコード付き電話帳印刷装置1を用いてバーコード付き電話帳2を印刷しておけばよい。

【0010】

【発明の効果】 以上説明したように本発明は、電話番号をバーコード化した電話帳を印刷できるバーコード付き電話帳印刷装置と、バーコードを印刷した電話帳から電話番号を読み取り自動電話発信を行う手段を有する電話機とを備えて自動電話発信を行うことにより、予め相手先電話番号を入力することなく、しかも、入力に伴って相手先電話番号を間違えることなく、自動電話発信を行うことができるという効果を有する。

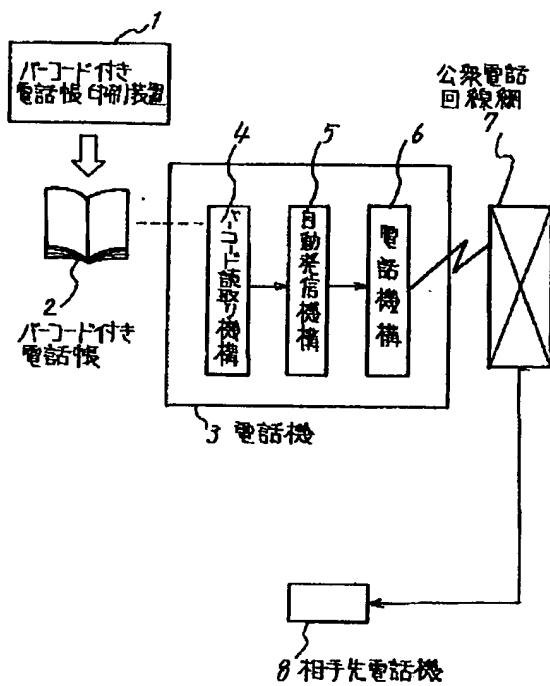
【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の一実施例を示すブロック図である。

【符号の説明】

30	1	バーコード付き電話帳印刷装置
	2	バーコード付き電話帳
	3	電話機
	4	バーコード読み取り機構
	5	自動発信機構
	6	電話機
	7	公衆電話回線網
	8	相手先電話機

【図1】



CLIPPEDIMAGE= JP406188962A

PAT-NO: JP406188962A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 06188962 A

TITLE: TELEPHONE SYSTEM WITH OPTICAL CHARACTER READER

PUBN-DATE: July 8, 1994

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

NAKAMURA, TERUO

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

NEC CORP

COUNTRY

N/A

APPL-NO: JP04338398

APPL-DATE: December 18, 1992

INT-CL_(IPC): H04M001/272

ABSTRACT:

PURPOSE: To designate the called party automatically by using the optical character reader(OCR) so as to read a called party telephone number from a telephone directory or an address book.

CONSTITUTION: The telephone user hooks off a handset 1 to use an optical character reader(OCR) 5 thereby reading a numeral string representing a telephone number of a called party (the numeric string is a coded string in terms of bar codes or a numeral string hand-written or printed) from a telephone directory or an address book to output numeral data. A control section 3 detecting off-hook gives a command to a buffer memory 4 to store tentatively numeral string data read by the optical character reader 5. A numeral data conversion section 6 started by the control section 3 upon the receipt of the end of storage of numeral data from the buffer memory 4 reads

the numeral data in the buffer memory 4 and converts the data into a telephone number and it is sent to a subscriber line 7.

COPYRIGHT: (C)1994, JPO&Japio

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-188962

(43)公開日 平成6年(1994)7月8日

(51)Int.Cl.⁵

H 04 M 1/272

識別記号

庁内整理番号

7190-5K

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数3(全3頁)

(21)出願番号 特願平4-338398

(22)出願日 平成4年(1992)12月18日

(71)出願人 000004237

日本電気株式会社

東京都港区芝五丁目7番1号

(72)発明者 中村 輝男

東京都港区芝五丁目7番1号日本電気株式
会社内

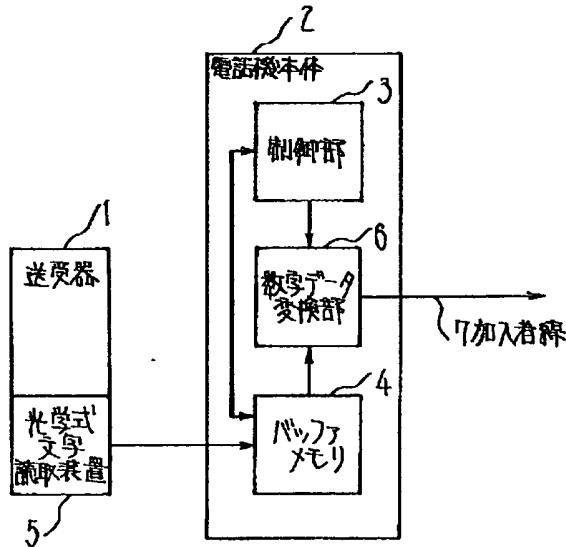
(74)代理人 弁理士 京本 直樹 (外2名)

(54)【発明の名称】 光学式文字読取装置付き電話方式

(57)【要約】

【目的】電話帳やアドレス帳から被呼者電話番号を光学式文字読取装置(OCR)で読み取って自動的に被呼者を指定することができるようとする。

【構成】電話利用者が送受器1をオフックして光学式文字読取装置(OCR)5によって電話帳やアドレス帳から被呼者の電話番号を示す数字列(この数字列はバーコード等にコード化されたものでも、手書きまたは印刷された算用数字列でもよい)を読み取って数字列データを出力する。オフックを検出した制御部3はバッファメモリ4に指示して光学式文字読取装置5が読み取った数字列データを一時蓄積させる。バッファメモリ4から数字列データの蓄積終了の通知を受けた制御部3によって起動された数字データ変換部6はバッファメモリ4内の数字列データを読み出して電話番号に変換して加入者線7へ送出する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 光学式文字読取装置を付加した送受器と、電話機本体とからなり、前記電話機本体は前記光学式文字読取装置が読み取った数字列データを一時蓄積するバッファメモリと、このバッファメモリ内の前記数字列データを電話番号に変換する数字データ変換部と、この数字データ変換部から加入者線への前記電話番号の送出制御を行う制御部とを備えることを特徴とする光学式文字読取装置付き電話方式。

【請求項2】 前記光学式文字読取装置は被呼者電話番号を示すコード化された数字列を読み取ることを特徴とする請求項1記載の光学式文字読取装置付き電話方式。

【請求項3】 前記光学式文字読取装置は被呼者電話番号を示す手書きの数字列を読み取ることを特徴とする請求項1記載の光学式文字読取装置付き電話方式。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明はコード化されているかまでは手書きの相手先電話番号を光学式文字読取装置を用いて読み取ることにより被呼者を特定する光学式文字読取装置(OCR)付き電話方式に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来の電話機では、手で数字ボタンを押下することにより相手先電話番号を入力していた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 この従来の電話機による相手先電話番号指定方法では、何桁もの数字を1つ1つダイヤルしなくてはならなかつたので、数字の押し間違いや相手先電話番号の記憶違い等を犯し易いばかりでなく、ダイヤル操作に手間がかかるという問題点があつた。

【0004】 本発明の目的は、電話帳やアドレス帳から被呼者電話番号を光学式文字読取装置(OCR)で読み取って自動的に被呼者を指定することができる光学式文字読取装置付き電話方式を提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】 本発明の光学式文字読取装置付き電話方式は、光学式文字読取装置を付加した送受器と、電話機本体とからなり、前記電話機本体は前記光学式文字読取装置が読み取った数字列データを一時蓄積するバッファメモリと、このバッファメモリ内の前記数字列データを電話番号に変換する数字データ変換部と、この数字データ変換部から加入者線への前記電話番号の送出制御を行う制御部とを備えている。

【0006】 そして、前記光学式文字読取装置は被呼者電話番号を示すコード化された数字列を読み取るものであってもよいし、手書きの数字列を読み取るものであってもよい。

【0007】

【実施例】 次に、本発明について図面を参照して説明する。

【0008】 図1は本発明の光学式文字読取装置付き電話方式の一実施例を示すブロック図である。

【0009】 本実施例は図1に示すように、光学式文字読取装置5を付加した送受器1と、電話機本体2とからなり、電話機本体2は光学式文字読取装置(OCR)5が読み取った数字列データを一時蓄積するバッファメモリ4と、このバッファメモリ4内の数字列データを電話番号に変換する数字データ変換部6と、この数字データ変換部6から加入者線7への電話番号の送出制御を行う制御部3とを備えている。

【0010】 続いて本実施例の動作について説明する。

【0011】 電話利用者が送受器1をオフックして光学式文字読取装置(OCR)5によって電話帳やアドレス帳から被呼者の電話番号を示す数字列(この数字列はバーコード等にコード化されたものでも、手書きまたは印刷された算用数字列でもよい)を読み取って数字列データを出力する。

【0012】 オフックを検出した制御部3はバッファメモリ4に指示して、光学式文字読取装置5が読み取った数字列データを一時蓄積させる。

【0013】 バッファメモリ4から数字列データの蓄積終了の通知を受けた制御部3は数字データ変換部6を起動し、数字データ変換部6はバッファメモリ4内の数字列データを読み出して電話番号に変換して加入者線7へ送出する。

【0014】

【発明の効果】 以上説明したように本発明は、相手先電話番号をあらかじめコード化または手書きしておくかあるいは印刷しておき、この相手先電話番号を光学式文字読取装置(OCR)を用いて読み取って被呼者電話番号を自動的に指定できるようにしたので、間違い電話をする危険性が無くなり、またダイヤル操作時間も短縮されるという効果を有する。

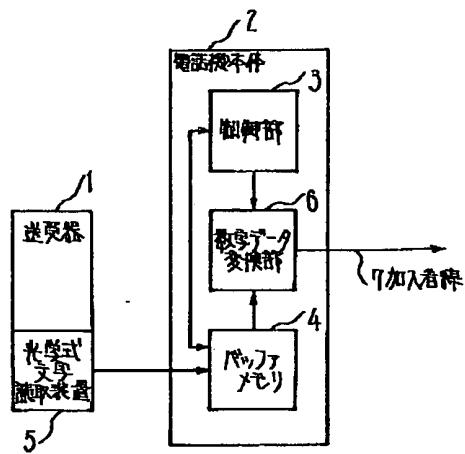
【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の光学式文字読取装置付き電話方式の一実施例を示すブロック図である。

40 【符号の説明】

- 1 送受器
- 2 電話機本体
- 3 制御部
- 4 バッファメモリ
- 5 光学式文字読取装置(OCR)
- 6 数字データ変換部
- 7 加入者線

【図1】



CLIPPEDIMAGE= JP362264752A
PAT-NO: JP362264752A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 62264752 A
TITLE: OUTGOING SYSTEM FOR TELEPHONE SET

PUBN-DATE: November 17, 1987

INVENTOR-INFORMATION:

NAME
SUDA, KOJI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
NEC CORP	N/A

APPL-NO: JP61106782

APPL-DATE: May 12, 1986

INT-CL_(IPC): H04M001/27; G06K007/00 ; G06K007/10

ABSTRACT:

PURPOSE: To prevent a wrong dialing and to simplify the dialing by using a bar code reader to read a telephone number subjected to bar coding for the dialing thereby eliminating the need for dialing after looking at a telephone number.

CONSTITUTION: In hooking off a hook switch 2, a CPU 3 and an interface 4 are in the telephone number information input waiting state. Then plural opposite telephone numbers are read by a bar coder reader 5 from a telephone directory where plural telephone numbers are bar-coded and printed out. The read information is converted by an interface 4 and sent to a CPU 3. The CPU 3 decodes the converted information, sends it as a telephone number signal to a sending circuit 6, where the signal is converted into a dial pulse, which is sent via a network 7.

COPYRIGHT: (C)1987, JPO&Japio

⑱公開特許公報 (A) 昭62-264752

⑲Int.Cl.

H 04 M 1/27
G 06 K 7/00
7/10

識別記号

府内整理番号

7251-5K
U-2116-5B
Z-2116-5B

⑳公開 昭和62年(1987)11月17日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全2頁)

㉑発明の名称 電話機の発信方式

㉒特 願 昭61-106782

㉓出 願 昭61(1986)5月12日

㉔発明者 須田 耕司 東京都港区芝5丁目33番1号 日本電気株式会社内

㉕出願人 日本電気株式会社 東京都港区芝5丁目33番1号

㉖代理人 弁理士 芦田 坦 外2名

明細書

1. 発明の名称

電話機の発信方式

2. 特許請求の範囲

1. パーコードリーダと、該パーコードリーダから読み込まれたパーコード化された電話番号を解読して、発信信号として送出する解読送出手段とを備える電話機を有し、前記パーコードリーダによってパーコード化された電話番号を読み取ることによって発信操作を行うようにしたことを特徴とする電話機の発信方式。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は電話機に関し、特に電話機の発信方式に関する。

(従来の技術)

一般に、電話機での発信操作はダイヤルあるいは

はプッシュボタンによって行われている。

(発明が解決しようとする問題点)

ところで、従来の発信操作の場合、電話番号を見て(読み取って)から、ダイヤル(あるいはボタンをプッシュ)する必要があり、即ち、電話番号の読み取り、ダイヤルという動作をしなければならず、また、誤ダイヤルが多いという問題点がある。

(問題点を解決するための手段)

本発明は、パーコードリーダと、該パーコードリーダから読み込まれたパーコード化された電話番号を解読して、発信信号として送出する解読送出手段とを備える電話機を有し、前記パーコードリーダによってパーコード化された電話番号を読み取ることによって発信操作を行うようにしたことを特徴としている。

(実施例)

以下本発明について実施例によって説明する。

図面を参照して、本発明による電話機1はフッタスイッチ2、中央処理回路(以下CPUといふ)

3. バーコードリーダインターフェース回路（以下インターフェースといふ）4. バーコードリーダ5. 発信信号送出回路（以下単に送出回路といふ）6. 及びネットワーク7を備えている。

通話をを行う際、受話機（図示せず）等をはずして、フックスイッチ2をオフ（OFF）とする。フックスイッチ2がオフとされると、CPU3及びインターフェース4はフックスイッチ2からのオフ信号を受け、これによって、電話番号情報入力待ち状態となる。

次に、複数の電話番号がそれぞれバーコード化されて、印刷された電話番号表から通話をを行う相手方電話番号をバーコードリーダ5で読み取る。このバーコード化された電話番号情報はインターフェース4で所定の信号（CPU3が解読できる信号）に変換され、CPU3へ送られる。

CPU3は上述の変換信号を解読し、電話番号信号として送出回路6に送る。この電話番号信号は送出回路6でダイヤルパルス（あるいはプッシュボタン信号）に変換され、このダイヤルパルスは

フェース回路（インターフェース）、5…バーコードリーダ、6…発信信号送出回路（送出回路）、7…ネットワーク。

代理人 (7783) 弁理士 池田憲保



ネットワーク7を介して局線（あるいは構内交換機の電話機インターフェース回路）へ送出される。そして相手側電話機と接続され、通話ができる。

（発明の効果）

以上説明したように、本発明ではバーコードリーダによって、バーコード化された電話番号を読み込んで、発信信号として送出するようにしたから、従来のように電話番号を見て（読み取って）、ダイヤルするという動作を行う必要がなく、誤ダイヤルを防止することができる。

また、バーコードの作成は、汎用のパソコンコンピュータ等で簡単に作成でき、印刷も極めて簡単である。また、バーコードリーダの形態から考え、バーコードを印刷する用紙等の大きさは所定の大きさ以上であればよい。

4. 図面の簡単な説明

図面は本発明の一実施例を示す図である。

1…電話機、2…フックスイッチ、3…中央処理回路（CPU）、4…バーコードリーダインターフェース

